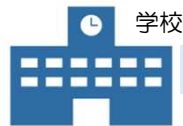


# 和歌山発！地域の未来を拓く鍵となる「Key Girl」育成プログラム

研究開発の背景



学校

探究活動によって生徒の質が変容



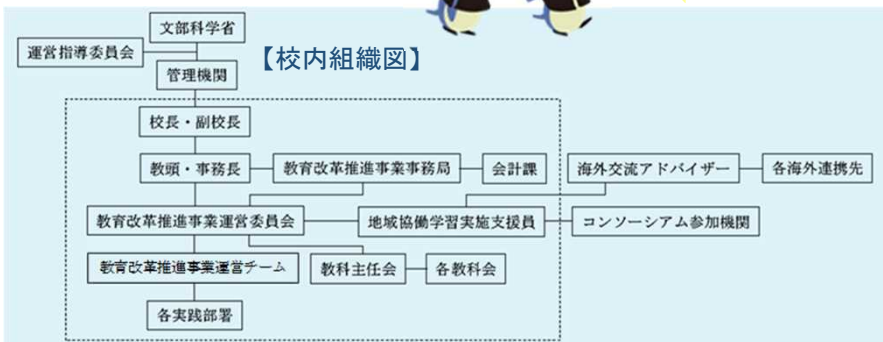
カトリック教育によって奉仕貢献の心が育まれた本学生と地域の未来に尽力する人々との絆が地域の未来を切り拓く人材へ育成させる

和歌山県の現状→急激に少子高齢化が進む（高校卒業者の県外流出が大きな原因）



地域

実施体制



今年度の取組と成果

令和元年度の目標	取組状況
A 「リージョン探究」の完全実施	完全実施
B 「グローバル探究」の部分実施	予定内容を実施
C 「英語で学ぶ」指導法開発	部分実施
D 「ミニ探究」授業開発	部分実施
E 本事業の内容理解の共有（コンソーシアム参加機関・保護者・生徒）	部分実施
F 「キャリア探究」の部分実施	予定内容を実施
G 海外研修の合同研修会	完全実施

## 成果

- A：事後アンケートによると、「リージョン探究」を通して、学習前よりも地域に対する興味関心、地域社会への貢献意識、協働することの大切さ、正解が一つではない学びに対する挑戦心が向上した。
  - B：事後アンケートによると、「グローバル探究」を通して同様に各数値は向上した。特に、グローバル探究の意図である、課題を広い視野で見るとの意識の重要性および英語学習に対する意識は大きく数値を伸ばした。
  - B：事後アンケートによると、リーダー養成プログラムとして位置づけた「グローバル探究」のカンボジア研修参加者は、各種プログラムから多くの刺激を受け、奉仕貢献・協働・英語力・チャレンジ精神など全ての項目で数値が向上した。
  - C：アジア高校生架け橋プロジェクトによる留学生在籍クラスを中心に、各教科で「英語で学ぶ」授業を実践した。
  - E：本年度の学びの成果を通して、コンソーシアム参加機関から改めて本事業の学びの大切さを理解していただいた。
  - G：カンボジアをフィールドに海外研修を行っている5校が集まり開催された合同研修会に参加した。3名の参加生徒は他校の生徒や他校の学びに触れ大きな刺激を受けた。
- その他：1. 実数の測定は臨時休校のため行うことはできていないが、多くの生徒が校内の学びを糧に、学外のイベント、プログラム、ボランティア等に積極的に参加した。  
2. 当初2021年度から実施予定だった研究成果発表会を校内施設で今年度から前倒して実施した。

## 課題

- A・B：正解が一つではない学びにチャレンジする重要性は把握しながらも、探究プログラムを通して「納得解」「適正解」を導く力が向上したという認識度合いは低かった。そのため、本事業を通して生徒たちの自己肯定感を向上させるような関わりを行う。
- B：「グローバル探究」は生徒自身が課題設定を行ったが、その結果「納得解」を提案するに当たっての設定がバラバラであるという指摘を運営指導委員会より受けた。そのため、次年度は納得解を提案するに当たっての条件を設けることで対応する。
- C・D：A・Bの運営に教員の労力がとられ、C・Dの進捗状況に遅れが生じている。
- C：アジア高校生架け橋プロジェクトによる留学生在籍クラスを中心に「英語で学ぶ」授業の実践を試みたが、指導手法の確立まで進んでいない。
- E：1. 4月の段階で採択後に本事業の内容説明を行ったが、プログラム終了後のアンケートから本事業の内容、プログラムの意図等を理解しきれていない生徒が多数いることが判明した。次年度は、事業内容の説明をより丁寧に実施する。  
2. 課題が山積する本地域の未来を考え、将来地域の未来に貢献する人材を育成しようという本事業に対して協力を依頼しコンソーシアムを構築したが、現状、講師派遣等の協力は得られているものの、カリキュラム開発において他の採択校と比較すると支援が少ないという指摘を受けたため、改善を目指す。

次年度への課題